

新宮山彦ぐるーぷ第2042回

行仙宿に殺菌剤散布と管理棟用スノコ荷揚げ

◇実施日；2019年9月8（日） 晴後時々雨

◇参加者…上村洋司、梶野照雄 （2名）

午前9時前に浦向からR425に入る。少し走ると対向してきたバイクの女性に呼び止められた。「この先に倒木があり、通れないかもしれない。役場にチェーンソーを借りにいくつもりだ」と言う。倒木の太さや本数を聞いてみたら、腕位の太さものが一本だそう。右側のネットの間から、地上2mの高さに道を横切る形で木が倒れていた。ノコで根元付近を切断、切った木はガードレールの外側に排除した。



R425の倒木



荷物を積んで登る



スノコを荷揚げ

登山口に到着、上村さんが待っていた。倒木のことを聞くと、車高が低い上村車は、木の下をくぐり抜けて通過できたとのことだった。モノレールに、毛布用と資材用のキャスター付きスノコ6枚を積んで登りだす。モノレール荷台のカバーには大量の雨水が溜まっていた、カバーを外すのに一苦労した。終点から小屋迄、スノコを2回に分けて運ぶつもりだったが、アルミで作ったスノコを上村さんがザックに縛り付けて運んでくださった。小屋迄一回で運べて大助かりだった。



毛布用スノコ

棚は撤去した

北側資材用スノコ

行仙宿到着後、小屋、管理棟などを全て開放、スノコを管理棟に運ぶ。倉庫からハンマーとくぎ抜きを出してきて、北側に造られた棚を撤去した。撤去した跡に大量のワタ埃があったので、掃除機できれいに吸い取った。小屋に消毒剤を撒いていた上村さんが現れたので、管理棟毛布置き場付近の散布をお願いする。

小屋に戻ってストーブ上の排気筒周りを再び観察する、上村さんの提案で、ストーブのドラム缶を少し右に回して煙突の曲がり解消した。角排気筒の下に空いた空間をアルミの風除けとアルミ箔を使って応急的に塞いだ。

ストーブに火を入れてみると、煙は煙突の方に流れていき、以前よりも吸い込みは良くなったようだ。煙突の先端は、角排気筒の先端まで届いておらず、屋根スレスレか屋根より低い位置にあるため、両端が開いた角排気筒の中で煙が上下していた可能性がある。

昼食後、屋根に上って排気塔の状態を確認する。排気塔の先端部分は差し込んであるだけで、ネジ止めなどの固定はされていなかった。差し込まれている屋根に近い内側部分は、最初に造った部分と思われるが、四面にステンレスの金網が付けられていて、その上部に屋根が取り付けられていたようだ。



屋根上排気塔周りの状態

排気塔下の小屋根の東西に薄板で覆いが造られているが、板が痩せてきているので、強風で外れることも考えられる。西側裾にビニールシートを胴縁で押さえて水除けにしている部分があったが、屋根にビニールが常に接触しているため、屋根トタンの腐食が気になる。内側の煙抜き、或いは明り取とみられる隙間に被せられたブルーシートも劣化が進んでいるようだ。

全体的な劣化と屋根トタンに与える影響を考えると、小屋根の東西に造られた構造物を撤去して、ポリカーボネイトの波板などで補修するのが望ましい。

小屋屋根や樋に溜まった落葉なども多いので、天候の良い日に掃除する必要がある。

午後1時過ぎから小雨が降り出し、東側で枝を切除していた上村さんも小屋内に避難。午後2時に下山と決めて、開けた窓を閉めてあと片付けを始める。午後2時丁度に行仙宿を後にする。途中で小雨が降り出したが、雨具が必要なほどではなかった。

浦向まで降りると雨は降っておらず、池原では日が差していた。

(記：梶野)

今日もまた梶野さんにお世話になりました。上は東の風1m気温23℃湿度90%。梶野さんお手製のキャスター付きスノコを荷揚げしました。私が用意したのは農業用噴霧器と医療用次亜塩素酸系消毒薬です。噴霧器は12号台風で自宅アパートがどっぷり胸まで床上浸水した時に用意したものです。消毒薬はノロウイルス対応の超強力版。これを一般居室向けの濃度にまで落として用意しました。



消毒剤の散布



散布後の小屋床



使用した噴霧器

小屋と管理棟と倉庫の床上床下壁面天井土間什器および外回り、すべて可能な限り噴霧しておきました。ニオイを抑えたタイプなので、噴霧直後はうっすら塩素のオゾン臭がしたものの、乾燥と同時に元々の部屋臭も一緒に消えて無臭空間になっています。残留塩素も発生期のオゾンが抜けると同時に時間と共に有機物と結合してほとんど無効化させ、みるみる無機塩(えん)に変わり無害化しますのでご安心下さい。これで当分は綺麗な環境でいけるはずです。梶野さんは管理棟の中を整理され、私はオイシイ時に現れて消毒だけして横着していました。また、大屋根の上に出て煙突の現状調査をして頂いて、現状の問題点をいくつも記録されました。雨漏りの原因が次第に明らかになることでしょうか。梶野さんのご考察結果を待ちたいと思います。ロケットストーブの排気管の位置と二重屋根開口部との水平的位置関係がズレているため、煙突が斜めにな

っており、これを正すためにストーブ本体を少し回転させ、煙突取付け部が開口部の真下に来るようにしました。しかもその煙突は室内で途切れ、既存の角ダクトに先っぽを突っ込んだだけで途切れています。これではストーブ内部と煙突頂端との気圧差が打ち消され、室内に排気漏れを起こしてしまいます。道理で煙たかった訳ですよね。この対策にダクトと煙突の接合部にカセコンのそばにあつたアルミレンジカバーを潰してアタッチメントを急ごしらえ、針金とアルミホイルで隙間を目張りして可能な限り室内空間と煙突内部との縁を切りました。次回アルミホイルの予備1本補充しないといけませんね。折からそぼ降る時雨のせいか、さっきまで乾いていた土間はまたもじつとりと水を浮かべ出し、当惑しました。この乾燥も兼ね、ストーブを試験燃焼させました。すると、今まで煙たい思いをしながら二度三度神に火を付けていたのが、一発でスーッと炎の穂先が吸い込まれるようになりました。湿った焚付けなのですぐにダウンしかけるのですが、それでもメゲズどんどん吸い込まれて見る間に焚き木に火が移ります。急場凌ぎのアルミ細工ですが、ちゃんとしつらえれば相当性能アップすることと思います。梶野さんがメジャーで採寸されました。改善に必要な部材はすぐに判明するでしょう。あ、児島さん、ストーブずらしたので耐火セメントぶっ壊してしまいました。天蓋もスキマ作ってしまったので耐火下さい。すみません。でもそれなりに使えてはいますので、何卒ご容赦



東側の枝打ち中

落ち葉が溜まっている

下山完了

そして私は4回目の枝打ち。今回は相当採光と通風が改善し、時雨空の低い雲の立ち込める時でも街角の一室？とまでは言えませんが、それでも真つ黒に煤けた室内は相当明るくなりました。バツサリ丸坊主も可哀想だし、防風機能も大事なので、今時の都会近郊の分譲住宅にありがちな、ヒメシヤラやカツラなどを門扉脇に植え込んだ”シンボルツリー”をイメージして、出来るだけすらつと伸びつつ薄っすら木陰を作る感じにしたつもりです。あと、残る課題は大屋根に覆いかぶさる高木の横枝。かなり高所にあり、簡単には手が出せません。もう少し腕を磨いてからやってみます。モノレールはすこぶる快適で、あまり大きな声では言えませんが、乗車のコツは後ろ向きで座り、傾斜に応じて上半身を杉の木と同じように垂直にしておくだけで両手におにぎりや唐揚げ持っても大丈夫です。貨車の床面が網板なので布やゴム底に対する食いつきが強靱で、普通にお尻を下せば微動だにしません。知らなかったもの

で律儀に棒にぶら下がって耐えて、今まで大変ご苦労さんだった訳です。

(記；上村)

行動タイム

09：30 登山口↓09：53 モノレール終点↓10：27 行仙宿 14：00→14：25 登山口